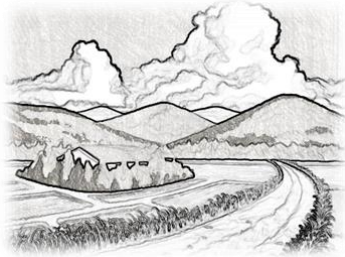




# 清新二中だより

## 本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）



## 林間学校 — 2泊3日間 農村体験 —

校長 白石 亨

一度も行ったことがないのに、妙に懐かしい風景がある。

2年生を乗せた林間学校のバスが栃木県大田原市にさしかかると、遠方に望む那須連峰の稜線からは力強い入道雲が湧き上がっていた。夏の濃紺の青空を切り裂いて入道雲がまばゆいばかりに白く輝いていた。また車窓からの風景は緑一色に染まっていく。見渡す限りに水田が広がり、強い風で稲穂がゆれだすと、緑の波紋をつくってうねりながら水田一帯を駆け抜けていく。この田園地帯の中に農家の方々の家が点在していた。威風堂々とした立派な古民家の佇まいを見せていた。眩しい陽射しの中、まさに絵に描いたような夏の田舎の光景があった。そう、大田原・那須地域は関東一の農業地帯。専業農家の方々が一番多い。日本の原風景である農村地帯を目にすると、どこか懐かしさが込み上げてきた。

今回2年生林間学校は、この栃木県大田原市並びに那須地域を訪れた。

大田原市の旧芦野小学校体育館に到着すると、2泊3日間お世話になる農家の方々との開村式・対面式が行われ、早々に農村体験学習が開始された。地元の担当の方に車を出してもらい、教員全員で生徒が分宿する各農家のお宅を巡回した。「初対面の農家の方々と上手くやっているだろうか」などの教員の心配をよそに生徒たちは実に生き生きと活動していた。先生方の顔を発見するや否や、田んぼの畦道を一所懸命に走って駆け寄ってくる生徒がいた。担任は驚き、「普段は絶対に走らない生徒なんです。それが走って来てくれたんです」と嬉しそうにつぶやいた。絶対に走らない生徒でも本来、生徒の心の中には生き生きと輝く美しいものがたくさん跳ね回っているにちがいない。それが大自然に包まれた農村の中で一気に解放されたように思えた。豊かな自然の澄んだ空気感は生徒の心をやさしく解放してくれる。素直にしてくれる。生徒一人ひとりの素顔が見えてくる。

また各農家のお宅では、気温の高い日中の農作業は行わず、夕方と朝方の涼しい時間帯のみに限って体験活動を行うことが取り決められていた。教員が巡回でお邪魔しても休息中の生徒が多かった。生徒は並んで縁側に座り込みスイカを頂いていた。シャリシャリとスイカを頬張り、プップッと種をそのまま庭に飛ばす。シャリシャリ、プップッを繰り返しながら実に美味しそうに食べていた。縁側で食べるスイカの味の醍醐味を満喫していた。

このとき農家の方から聴かせていただいた言葉がとても強く印象に残っている。「清新二中の生徒さんはとても素直」「清新二中の生徒さんを自分の子が帰ってきたと思って接しているんですよ」と笑顔で語ってくれた。自分の子としてこの言葉がとても温かく感じられた。有難かった。昨今、他人様の子供を預かることはとても難しい。そんな中、2泊3日間も預かっていただいたのだ。農家の皆さん方の気持ちの広さ、懐の深さを感じずにいられなかった。お会いした多くの農家の方々のとびきりの笑顔が温かかった。

もちろん農家の方々は決して経済的な理由から中学生を受け入れている訳ではない。

地域の行政機関と連携・協力し、農村体験学習を企画して東京からの子供たちを受け入れている。都会の子供たちに少しでも農村の暮らしの善さを伝えて、農業に携わることのやり甲斐や喜び等を伝えたいと考えている。だからこそ苦勞を惜しまない。長い真竹を事前に準備して流しそうめんを体験させて頂いたグループもあった。生徒たちが着ていたジャージを人知れず洗濯し、物干し竿にかけてくれていた高齢のお父さんもいた。

目に見えるところ、見えないうところで、どれだけの時間と労力をかけて準備をしてくれていたのであろうか。このことを想像し、人の心の温かさに思いを馳せ、2年生には林間学校を今一度振り返ってもらいたい。